

# メバチ 中西部太平洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*



## 管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)、太平洋共同体事務局 (SPC)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：10~15 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：温帯域
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海産哺乳類

## 利用・用途

刺身や缶詰原料

## 漁業の特徴

はえ縄及びまき網が主な漁業である。はえ縄は 1950 年代にキハダを主要対象種として発展したが、1970 年代半ばにメバチを主要な対象とするようになった。まき網は、カツオを主対象としつつ、キハダも漁獲する漁業として 1970 年代半ばに始まった。1970 年代までは、はえ縄が漁獲の 9 割を占めていたが、1980 年代以降、まき網による漁獲量が増加した。フィリピン・インドネシアでは小型まき網、ひき網、竿釣り、手釣り等の漁業が小規模かつ多様で、漁獲量も大きい。

## 漁獲の動向

総漁獲量は、はえ縄がほとんどであった 1970 年代には 5 万トン未満であったが、まき網が増加した 1980 年代末に 10 万トン以上に達し、1990 年代後半には 15 万トン前後となった。2004 年に 19 万トンのピークを記録した後は 13 万~16 万トンで推移している。2019 年の総漁獲量は 13.5 万トン (予備集計) で、内訳は、まき網が 35%、はえ縄が 53%、竿釣りが 1%、そのほか 11%である。そのほかには、フィリピン及びインドネシアにおける多様な漁業 (ひき縄、小型のまき網、刺網、手釣り等) が含まれている。

## 資源状態

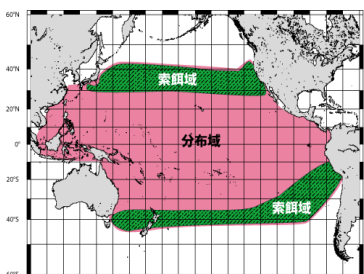
資源評価は 2020 年に太平洋共同体事務局 (SPC) の科学専門グループにより行われた。MSY は 15.9 万トン (24 モデルの中央値) と推定され、2019 年の漁獲量より大きい。2015 年から 2018 年の平均の産卵資源量のレベル ( $SB_{2015-2018} / SB_{F=0}$ ) は 0.41 (80%確率範囲は 0.27-0.52) であり、限界管理基準値 (Limit Reference Point ;  $SB / SB_{F=0} = 0.20$ ) を上回っている。また、従来、過剰漁獲能力の基準と見なされてきた  $F_{MSY}$  で判断した場合、2014 年から 2017 年の平均漁獲死亡係数は 1.0 を下回った ( $F_{2014-2017} / F_{MSY} = 0.72$ ) (80%確率範囲は 0.49-1.02)。資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲の強さが過剰でない可能性が高い。

資源水準と動向について、24 個の資源評価モデル結果の 1952 年以降 2018 年までの産卵資源量の平均値と標準偏差を、モデルごとに集計し、中位の産卵資源量を平均±1 標準偏差の範囲、それより大きい場合、小さい場合をそれぞれ高位、低位とすると、最近 5 年の産卵資源量は 92%が中位、残りが低位とされた。このため、産卵資源量レベルは中位であり、最近 5 年については多くのモデルで中位のまま変動が少ないので、資源動向は横ばいと考えられた。

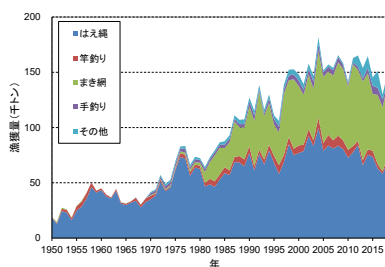
## 管理方策

- |            |  |
|------------|--|
| まき網 (熱帯水域) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FAD 操業禁止 3 か月 (7~9 月) + 公海 FAD 操業禁止追加 2 か月 (4~5 月もしくは 11~12 月)</li> <li>・ FAD 操業禁止は、本船以外の船 (tender vessel 等) にも適用される</li> <li>・ 公海操業日数制限は、先進国に加え島嶼国がチャーターする船にも適用</li> <li>・ FAD 数規制 (1 隻あたり常時 350 基以下) : 全条約水域に適用</li> <li>・ 公海操業日数の制限</li> </ul> |
| はえ縄        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島嶼国以外のメンバーの大型船隻数制限</li> <li>・ メバチの漁獲量制限 (我が国の漁獲枠は 18,265 トン)</li> </ul>   |

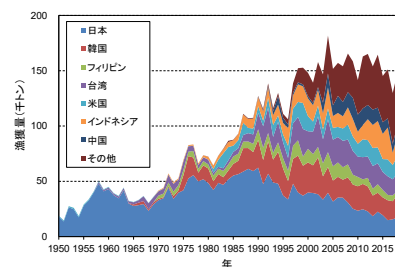
| メバチ（中西部太平洋）の資源の現況（要約表） |  |
|------------------------|--|
| 資源水準                   | 中位   |
| 資源動向                   | 横ばい  |
| 世界の漁獲量<br>(最近 5 年間)    | 12.9 万～15.1 万トン<br>最近 (2019) 年: 13.5 万トン<br>平均: 14.2 万トン (2015～2019 年)   |
| 我が国の漁獲量<br>(最近 5 年間)   | 1.4 万～1.9 万トン<br>最近 (2019) 年: 1.5 万トン<br>平均: 1.5 万トン (2015～2019 年)   |
| 管理目標                   | 検討中  |
| 資源評価の方法                | 統合モデル (Multifan-CL)  |
| 資源の状態                  | $SB_{2015-2018} / SB_{F=0} = 0.41$ 、 $F_{2014-2017} / F_{MSY} = 0.72$  |
| 管理措置                   | まき網（熱帯水域）<br>・FAD 操業禁止 3 か月（7～9 月）+ 公海 FAD 操業禁止追加 2 か月（4～5 月もしくは 11～12 月）<br>・FAD 操業禁止は、本船以外の船（tender vessel 等）にも適用される<br>・公海操業日数制限は、先進国に加え島嶼国がチャーターする船にも適用<br>・FAD 数規制（1 隻あたり常時 350 基以下）：全条約水域に適用<br>・公海操業日数の制限<br>・島嶼国以外のメンバーの大型船隻数制限<br>はえ縄<br>・メバチの漁獲量制限（我が国の漁獲枠は 18,265 トン） |
| 最新の資源評価年               | 2020 年   |
| 次回の資源評価年               | 2023 年   |



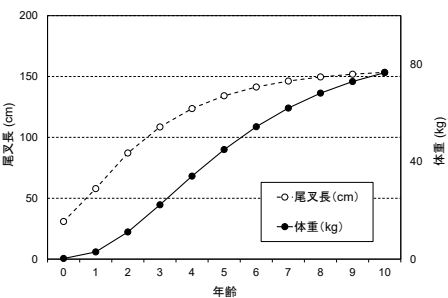
太平洋におけるメバチの分布



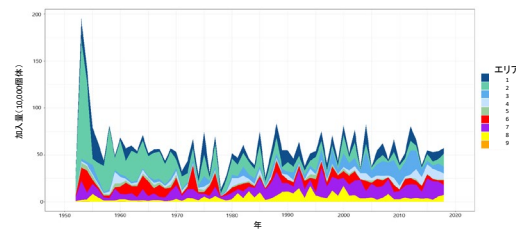
中西部太平洋におけるメバチの漁法別漁獲量の推移 (1950～2019 年)



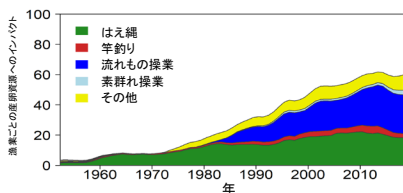
中西部太平洋におけるメバチの国別漁獲量の推移 (1950～2019 年)



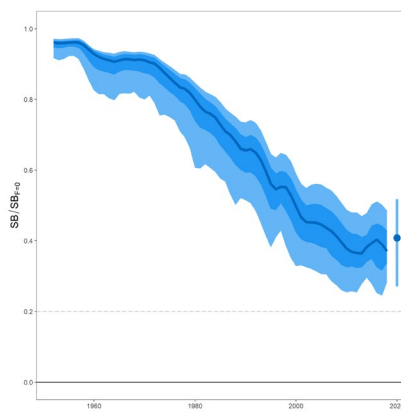
中西部太平洋におけるメバチの成長曲線



中西部太平洋におけるメバチの加入量 (1952～2018 年) 海域ごとの加入量を表す。



中西部太平洋における漁業ごとのメバチ産卵資源へのインパクト (1952～2018 年)  
 縦軸は漁業が資源を減少させた割合 (%) を示したものである。はえ縄 (緑)、竿釣り (赤)、まき網流れもの操業 (青)、まき網素群れ操業 (水色)、その他 (黄) を表す。



中西部太平洋におけるメバチの Spawning Biomass ratio の推移 (1952～2018 年)  
 漁業がないと仮定した状態の産卵資源量を 1.0 としたときの、2020 年の産卵資源量の割合。太い青線は 24 モデルのメディアン。濃い青色の影、薄い青色の影は、それぞれ、50 パーセントイル、80 パーセントイルを示す。最も疑義側の青丸は過去 3 年 (2015-2018) のメディアン、垂直のバーは 80 パーセントイルを示す。